

令和元年度 第2回「検討の場」 議事概要

日時：2019年11月27日（水） 13:00～14:00

場所：鹿児島森林管理署会議室

出席者：

- 【環境省】松永課長・松坂係員（九州地方環境事務所国立公園課）、柘植首席自然保護官・木滑自然保護官・平木生態系保全等専門員（屋久島自然保護官事務所）
- 【林野庁】河邊計画課長・江藤自然遺産保全調整官（九州森林管理局計画保全部計画課）、峰内保全課長・下田企画官・橋口野生鳥獣管理指導官（Ⅱ計画保全部保全課）、西署長（屋久島森林管理署）、黒木所長（屋久島森林生態系保全センター）
- 【鹿児島県】臼井技術専門員（環境林務部自然保護課）
- 【屋久島町】笹川主事（産業振興課）
- 【受託者】塩谷参事（鹿児島県環境技術協会）、中村（日林協）

配布資料：

- ・令和元年度第2回「検討の場」
- ・令和元年度第1回合同会議における主な助言に対する取組方向（資料1）
- ・シャープシューティングの体制によるヤクシカ試験捕獲の実施について（資料2）
- ・ヤクシカ個体数調整【林道におけるシャープシューティング体制による捕獲】取組年次計画（改定版）（資料2（別紙））
- ・ヤクシカ西部地域の意見交換会・アンケート結果・調査計画について（資料3）
- ・ヤクシカ個体数調整（西部地域計画捕獲）取組年次計画（R1年改定版）（資料3別紙）
- ・糞塊法調査実施メッシュの変更等の検討について（資料4）
- ・森林生態系の管理目標について―各目標の指標案・達成状況把握方法案と現状評価―
- ・ヤクシカと生きる～一緒につくっていこう、未来の屋久島～

議題

1. 前回ヤクシカ WG 議論の整理の確認について
2. 令和元年度シャープシューティングの体制による試験捕獲実施計画・説明会予定等について
3. 令和元年度西部地域意見交換会・アンケート結果、調査計画等について
4. 糞塊・糞粒法の調査箇所の見直しについて
5. 森林生態系の管理目標に関する現状把握・評価及び指標の作成について
6. その他
 - ・ヤクシカパンフ配布等について

○議事概要

■前回ヤクシカ WG 議論の整理の確認について

主な助言と取組方法について九州森林管理局計画保全部保全課から資料内容と回答欄についてはまだ確認中である旨を説明。

<意見・質問等>

- ・ 「低標高」と「低標高域」という用語が使われているが統一しなくてよいか。
⇒発言のとおりに記載している。

■令和元年度シャープシューティングの体制による試験捕獲実施計画・説明会予定等について

資料 2 及び資料 2 別紙に基づき、環境省屋久島自然保護官事務所から、今年度の実施 3 路線（鍋山林道、中間林道、小楊枝林道）、本年度は土日実施のため、緊急連絡先を後日お知らせすること、シャープシューティングの年次計画、を説明。

<意見・質問等>

- ・ 射手について、今回は地元猟友会有志ということで、その方自体は実績をお持ちだが、屋久島内部でライフル所持者がそもそも少ないので今後屋久島内部で射手を育成していくことができるかが課題である。
- ・ 誘引を行うのは誰か、今後も専門家に頼る部分が大きいのか。
⇒猟友会有志と請負業者で誘引を行う。今後徐々に、地元主体で事業が進められるようにしたい。
- ・ 誘引の餌は何か。ペレットは食べられないという話も聞いている。
⇒アルファルフアペレットを使用して誘引できている。ヤクシカの好みはかなり地域的な違いがあるようである。
- ・ 餌付け自体が 1 つの技術であり、最初餌を食べない場所でも味を覚えさせて食べるようにして撃つというのが誘引捕獲の 1 つの流れである。また、サルが来ないような餌付けも屋久島では重要である。

■令和元年度西部地域意見交換会・アンケート結果、調査計画等について

①資料 3 に基づき、屋久島自然保護官事務所から説明。また、これらを踏まえ、平成 30 年度 WG に提示した密度操作実験計画（案）の見直しを行うことを説明。

<意見・質問等>

- ・ 参加した感想として容認が 1/3、反対が 1/3、わからないが 1/3 くらいでずっと平行線のまま議論が続いている印象を持った。人選として、容認の学識者が少なく、反対やわからないといった学識者が多いため、座長の荷が重くバランスが悪いのではないかと。
- ・ 昔は食べる目的のシカの捕獲だったが、今は生態系保全目的の個体数管理のための捕獲となり、目的が変わったことが意見の違いを生じさせているように見える。
- ・ カメラのモニタリングについては、WG 委員より林道のヤクシカ密度は高いけれど少し登ると

密度が下がるとの意見を言われているので、それに留意したカメラの配置にされるとよい。
⇒標高の高いところにも設置し、林道沿いばかりではなく、ほとんど等間隔に近い形で配置している。

- ・ 資料のつくりについて、まず全体像を示してから、前回との変更点や詳細な点を示すともっとわかりやすく見やすくなるのではないかな。

②資料 3 別添資料 3 に基づき、アブラギリ純林伐倒試験地におけるモニタリング案について、屋久島自然保護官事務所から、外来種対策協議会でアブラギリ純林を試験的に伐倒することになったこと、それに伴いヤクシカの採食圧の変化と森林更新の関係についてみるために 4 つの方形区に分けてモニタリングを計画していることを説明

＜意見・質問等＞

- ・ アブラギリは確かアレロパシーを持っており発芽阻害をするので、精確にやるのであれば、落葉を剥ぐとかもした方がさらによいかもかもしれないが、新たな取組としてはよいと思う。
- ・ アブラギリについては、タヌキの種子散布によって広がった可能性もある。
- ・ モニタリングするのは良いが、モニタリングの結果何が判断できるようになり、何をするのかを見据えてされるとよい。

■糞塊・糞粒法の調査箇所の見直しについて

資料 4 に基づき、屋久島自然保護官事務所から、調査箇所の変更を検討するメッシュの踏査ルート等について説明

＜意見・質問等＞

- ・ 鹿児島県や九州森林管理局の糞粒調査のルートについては、今のところ変更を考えているところはない。

■森林生態系の管理目標に関する現状把握・評価及び指標の作成について

資料に基づき、九州森林管理局計画保全部保全課及び委託業者の日本森林技術協会から、第 2 回ヤクシカ WG での指標案と目標状況の把握方法の確定に向け、前回からの修正・更新部分と来年度の予定を中心に説明

- ・ 確認個体数について色付けしている部分の基準がわかりづらいのでその説明をつけてほしい。
- ・ 被度調査をブラン・ブランケの方法から%での調査に変えることは問題ない。

■その他

○ヤクシカパンフ配布等について

- ・ おそらく外国人観光客と思われるが、最近屋久島の西部林道でサルに餌をあげている人が見られる。注意喚起が必要と思われる。

○検討の場の位置づけ目的について

- ・ 主にヤクシカ対策に係る行政施策について行政間で意見に齟齬がないようにすることや、WG等で資料を出す前に情報を共有する場であると認識している。
- ・ 折角関係者が集まっているので、資料説明に多くの時間をとる場でなく、焦点を絞ってざっくりばらんに意見を言える場にしたらよいのではないかな。

以上